

第33回医療薬学公開シンポジウム開催報告

虎の門病院院薬剤部 林 昌洋
(株)ファーマック富士見台調剤薬局 上村直樹

平成20年11月30日(日)に、昭和大学 上条講堂(東京都品川区)において日本医療薬学会主催、東京都薬剤師会・東京都病院薬剤師会後援で「第33回医療薬学公開シンポジウム」を開催致しました。当日は、東京都内のみならず遠方からも参加を頂き110名が討論に参加していただきました。

わが国の医療は、崩壊の危機からの再生を目指しており、安心と希望の医療改革が今正に進められています。チーム医療・在宅医療が定着してきた今だからこそ、スキルミックス医療における薬剤師職能の新たな展開が求められている時期と考えられます。

そこで今回は「医療環境の激変に対応した薬剤師職能の発揮」をテーマとして、国民に、チーム医療のパートナーに、信頼される薬剤師職能の発展を、シンポジウム形式で追及することと致しました。まず、行政の立場からの薬剤師への期待について厚生労働省保険局医療課の磯部薬剤専門官からお話をいただきました。医療機能連携、医療費適正化とジェネリック活用、長寿医療制度など医療制度改革の中で薬剤師に期待される活動についてお話されました。これを受けて、病院薬剤師の視点として、チーム医療において薬剤師が担う処方設計について虎の門病院薬剤部の五十嵐先生から、ワルファリン、バンコマイシンの投与設計業務について紹介がありました。最後に、開局薬剤師の視点を交えて米国の薬剤師の職能についてCJCファーマ株式会社(明治薬科大学客員教授)の陳先生にお話をいただきました。

薬学教育6年制が現実のものとなり次世代の薬剤師が誕生しようとしています。一方、医療現場における薬剤師職能への期待と、職能の新展開はこれを待たずに先へさきへと進展を見せてきており、立ち止まることを許されない変化が求められています。シンポジウム終了後の総合討論では、シンポジストに参加者を交えて意見交換が行われ、更に深い現状認識と職能の新展開への理解が形成されました。

以上、本シンポジウムの内容の概略を報告いたしました。いずれの講師も医療環境の変化をとらえて具体的な職能展開への提言があり、参加者の皆様は新たな職能発揮へのモチベーションが確実に上昇したと思います。

第33回医療薬学公開シンポジウム 終了報告書

1. メインテーマ 医療環境の激変に対応した薬剤師職能の発揮！
2. 日時 2008. 11. 30 (日)
3. 場所 昭和大学 上条講堂
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 Tel. 03 (3784) 8000
4. 参加費 無料
5. プログラム

10:00-10:05 開会の辞 上村 直樹

座長 (株)ファーミック富士見台調剤薬局 上村 直樹
虎の門病院薬剤部 林 昌洋

10:05-11:35 シンポジウム

「病院・開局薬剤師に期待する役割」

厚生労働省保険局医療課 薬剤管理官 磯部 総一郎

「薬剤師による処方設計・副作用管理」

虎の門病院薬剤部 五十嵐 正博

「米国に見る薬剤師の役割」

C J Cファーマ (株) 陳 恵一

11:45-12:15 総合討論

12:15-12:20 閉会の辞 林 昌洋

12:30-13:00 一般社団法人日本医療薬学会設立説明会

日本医療薬学会 会頭 北田 光一

6. 参加者 110名

	会員	非会員	不明	計
病院薬剤師	58	17	0	75
開局薬剤師	6	8	3	17
その他	11	6	1	18
計	75	31	4	110

7. 日本医療薬学会認定薬剤師資格更新研修単位登録申請者 27名

8. 日本薬剤師研修センター集合研修認定シール (1単位) 受領者 102名